



-NEWS RELEASE-

環境配慮を超え、豊かな未来の環境誘導建築をめざす 環境建築デザイン研究室の展示会「環展」と、 西田 匠さん待望の初個展を開催します

6月8日（土）～9日（日）本学香美キャンパスにおいて、システム工学群 環境建築デザイン研究室(渡辺 菊眞 准教授)の取り組みの集大成を披露する展示会を開催します。現役学生や卒業生、渡辺准教授が設計した20作品にもおよぶ模型・パネルのほか、修士論文、研究室関連の出版書籍などを展示します。目玉企画の1つとして、昨年「JIA全国学生卒業設計コンクール2018」で全国1位（金賞）に輝いた西田 匠（にしだ たくみ）さん（大学院修士課程 社会システム工学コース2年）の初個展（※）を同時開催します。学生の成長過程や、自然と対話し、持続可能な社会の実現を目指した研究や、その成果を社会実装しようとする取り組みなどについて、紹介いたします。

環境建築デザイン研究室の展示会「環展」

- 日 時 令和元年6月8日(土)～9日(日) 12:00～17:00
- 場 所 香美キャンパス 教育研究棟C棟1階 102教室（香美市土佐山田町宮ノ口185）
- 内 容 1.もしも与島に住んだなら／2.西田 匠 建築展／3.Passive Solar Architecture
4.Award18修士研究卒業制作（詳細は別添パンフレットをご確認ください。）
- その他 ※入場無料。
※建築分野に興味のある高校生、地域の方々など、一般の方もお越しいただけます。
※取材いただける場合は事前に広報課へご連絡ください。

※西田 匠さん待望の初個展も開催します！

「JIA全国学生卒業設計コンクール2018」で全国1位（金賞）に輝いた西田 匠さんが受賞作品であるハッ場ダム設計の模型を含め、7つの作品を展示いたします。主観と情緒に溺れてしまう風景を空間と時間に分解し、風景創出装置としての建築が錬成されます。個人の情緒を無化し、それでも万人の主観に響く西田 匠さんの建築世界を堪能してください。



※3.Passive Solar Architecture

太陽の光や熱、風などの自然の恵みを建築的工夫により最大限受け取ることで夏涼しく冬は温かく過ごすことができる建築です。環境建築デザイン研究室の提案では、さらに風景と響きあう空間性をも備えています。本展では、戸建て住宅や保育園での導入作品を紹介いたします。



【本件問い合わせ先】

高知工科大学 入試・広報部 広報課 長山・石川
TEL：平日 0887-53-1080/土日 050-5363-1736

環境建築デザイン（渡辺菊真）研究室の設計作品を一同に出展

環境展

2019

0608-09

12:00-17:00

C102

企画 01 もしも与島に住んだなら

企画 02 西田匠建築展

企画 03 Passive Solar Architecture

Award18 修士研究卒業制作

見所。

企画 01 もしも与島に住んだなら

場所に立ち、場所を見つめ、場所で発想し、場所で設計する。渡辺菊真研究室、建築設計の根本である。場所は与島。かつて石切りで栄え、20世紀末に瀬戸大橋の橋脚を支えることになり、暢気な観光客の通過、石切地形と集落、巨大な橋、これらが驚異的な混在を見せる。そこに我々は終の住処を構想構築する。十人十色の個性豊かな敷地と住居。あなたが住むなら？

企画 02 西田匠 建築展

西田匠待望の初の個展。ともすれば主観と情緒に溺れてしまう風景が、西田の手により、空間と時間に分解され、その直後、鮮やかな手つきで組み替えられて構築に向かう。結果として風景創出装置としての建築が錬成される。情緒を戒い、時空間への分解再構成を経て、八百万の人々の主観や情緒に響く建築と風景が創出される逆説。西田匠の建築世界をご堪能あれ。

企画 03 Passive Solar Architecture

地球の上にたち、太陽の下に生きる。そんな人間の根本様態に叶う建築とは。Passive Solar Architecture は、太陽の光や熱、風、などの自然の作用と恵みを建築的工夫により最大限受け取り、人間を脅かす自然の猛威から庇護する建築を言う。その結果、人々は良好な室内環境のなかで過ごすことができる。渡辺研究室では、この技術に加え、風景と呼応する空間性を融合させることを追求している。今回の展示では戸建て住宅をはじめ、保育園での Passive Solar System 導入作品を紹介する。

Award18 修士研究 卒業制作

2018 年度に構築された2つの修士研究と1つの卒業制作を紹介。修士研究では物部川流域圏の集落の空間特性解明に向けて、神社と屋敷の空間構成を読み解いており、卒業制作では、尾道の路地のある居住区の過去と現在を、未来に向けて紡ぎ上げる建築提案である。場所に立ち、場所を読み、場所を発展的に更新できる空間形式を提示している。修士研究は場所を空間構成から読み解く深度を示しており、卒制は場所を読み創ることの建築の展開力を提示している。

もしも 与島 に住んだなら。

穏やかな瀬戸内海に浮かぶ島、与島。
かつては採石と海運で栄えた島である。しかし、瀬戸大橋の建設に伴い土地を譲渡するなどして、その多くは廃業した。瀬戸大橋開通で期待された商業施設もうまくはいかず、現在跡形すらない。残された採石場は荒々しい巨大な岩肌を露出させ、奇妙な神秘性を備えている。島の天空を突き抜ける橋があちこちから垣間見え、島の入り口のパーキングエリアは能天気な風情で場所や時間と関係のない賑わいを見せる。その一方で海に面した集落は静かで落ち着き穏やかな風景を見せ、のんびりとした時間が流れている。言いようのない不条理な魅力と未整理の問題、続いてきた島の集落の情景が奇跡的な混在を見せる与島。この島を舞台にした時、わたしたちに一体、何が可能なのか？

島の深刻な問題を解消し豊かな未来を提示する。そんなプロジェクトは無理ではないか。もし、そんな提示が安々とできたなら、他人事ゆえの責任ない思いだから。それは綺麗ごとには過ぎない。ここで何かをするならば、まずは自らが覚悟して、この地を自分なりに愛し、そこに在ることの意味を考え続けなければいけない。そんな覚悟が可能なこと。それはこの地に自らが住むことではないか？思いはそこに収斂した。

この島で住みたいと思う場所を見つけよう。そこに在りたいと願う家を建てよう。セカンドハウスなんかじゃなく終の住処として。与島を舞台にわたしたちに与えられた課題。もしも与島に住んだなら。